

編集室

清らかな引き際を見た。白門祭(11月4日、多摩キャンパス)中央ステージで、中央大学書道会の「パフォーマンス」が終わった直後だ。

大勢の部員が、墨で汚れた舞台や通路を雑巾がけ。飛び散った墨を見つけると先を争うかのように走っていく。自分たちの顔に墨が付いているのも構わずに。

30分ほどの舞台では、墨汁をたっぷりと浸み込ませた超極太の筆を執り、独自に用意した畳サイズのパネルにたたきつけるように大書した。果ては水鉄砲に入れたカラー墨汁で出来上がった作品に彩りとアクセントを加えるなど。出演した全6チーム、11作品のパフォーマンスは「静」なる書道の印象をはるかに超えたスピード&チャージの連続だった。

舞台装置が汚れないよう、次のステージ使用者が不快にならぬよう、部員たちはパネルの後方に超大型ラップを等身大の長棒2本の間に広げ、壁のようにして防御した。これを「飛墨旗」と呼ぶそうだ。

ラップに見えたのは実は市販のゴミ袋。切断し、姿を長方形に変えて何枚も貼り付けた。床全面には超大判のブルーシートを敷いた。進行役のマイクスタンドもビニールに包まれた。

鉄壁の備えは、白門祭のために練習したわけではない。「日頃から迷惑にならないよう気をつけています。先輩が実践しているのを見て、新入生たちも身に付けていきます」と3年生が言う。

極太筆から繊細な心配りまで多才に表現する書道会。「立つ鳥、後を濁さず」は書かずとも、部員の心奥にしっかりと刻まれている。

(編集長 久保田茂信)

Staff

◎取材協力

学事部
各学部事務室
大学院事務室
学生部
ボランティアセンター
中央図書館

国際センター
入学センター
キャリアセンター
校友会
経理研究所
学会会 ほか

◎写真提供&協力

「中大スポーツ」新聞部

◎学生記者

山下崑	内藤伊音	土方海緒
菅野誠一郎	佐藤檀子	野口真莉子
代田知之	本間友理香	山田亮太郎
今村直道	宮田詩織	宮本大句見
片桐将吾	森真優	中里真侑
長塚優佳	田村律子	(順不同)

◎制作協力

平田碧(株式会社ツグミ)
稲葉美枝子(株式会社オーク)
太田まゆみ
桑原和彦 村田朋隆(研精堂印刷株式会社)

NEXT ISSUE

『HAKUMON Chuo』2018 早春号
No.255 3月24日発行予定

学生記者が総力取材!

お楽しみに!



2017 冬号 NO.254

2017年(平成29年)12月15日発行

発行：中央大学広報室
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

メールアドレス：hc@tamajs.chuo-u.ac.jp
編集担当：『HAKUMON Chuo』 ☎042-674-2048